

市民研 通信

No.17

2013年4月

通巻145号

●市民研ホームページに掲載中の最新の論文

～すべてどなたでもダウンロードできます

<特集：ナノ粒子の健康リスク>

2013年2月23日実施 第51回 市民科学講座 報告

ナノ粒子の健康リスク～母子伝達と次世代影響、リスク管理を軸に

ナノテクノロジーのリスクをどう考えるべきか

上田昌文(市民科学研究室・代表理事)

ナノ粒子の健康リスク(1) 母子伝達と次世代影響

武田 健(東京理科大学・副学長)

ナノ粒子の健康リスク(2) 私たちはいかにリスクを回避できるのか

梅澤 雅和(東京理科大学・助教)

ナノ毒性クライシスの検証/ナノリスク問題で孤立する日本

小林 剛(環境医学情報センター代表)

報告 ハーデルが論じる、携帯電磁波の脳腫瘍リスクと予防原則

～欧州環境庁のレイト・レッソンス報告書IIより 上田昌文

翻訳 ウクライナ政府報告書(第3章、第4章)の日本語訳・修正版

エッセイ 「私のおすすめ3作品 2012」 市民研会員有志

●会員向け送付資料

・会員宛 会報 003

・雑誌連載「環境ニュース」2013年1月～4月 別刷

●研究会の案内

4月27日(土)午前10時～ 生命操作・未来身体研究会 定例会

iPS細胞・再生医療とリプロダクション

発表者：上田昌文 参加者：研究会メンバー4名+希望者若干名

iPS細胞と再生医療に関する基礎的な事柄を学んでおきたいと思えます。専門的な知識は前提にいませんので、どなたでもどうぞ。

5月12日(日)午前10時～ 食の総合科学研究会 定例会

「妊娠・出産時の基礎栄養学(仮題)」

発表者：小林友依、菊池享子 参加者：メンバー5名+希望者若干名

「ラプテリ 東京&NY」が発刊した『Baby Book 1』をテキストにして、最初の2章分(75ページあたりまで)を扱います。市民研のこれまでの蓄積を生かして「食と健康」の観点から、かなり詳細な点検を加えています。

2013年秋開催「20周年記念イベント」の アイデアを募集中

上田昌文(市民研代表)

今年(2013年)に、市民科学研究室は、「科学と社会を考える土曜講座」という名での市民による自主的な学習会を立ち上げてから(1992年夏)、21年目を迎えることになりました。会員数でみると現時点でも300名には達していませんから、規模の小さなNPOであることには依然変わりはないのですが、広く科学技術分野全般を対象としながら「市民・生活者の目線から」を標榜した、数少ないNPOとして、社会的に注目される度合いは着実に大きくなってきています。市民と専門家の双方から、「頼りがいのある相談所、媒介役、調査機関であってほしい」との期待を寄せていただいている、とあっていいでしょう。

現在の体制は常勤2名(代表の上田と事務局)と理事メンバー5名をスタッフとして、5つの常設の研究グループによる学習と調査、公的あるいは民間の助成を受けたいくつかの調査事業、2ヶ月に1回程度の市民科学講座や市民科学談話会を主軸にしながら、種々のイベントや講師派遣、記事・論文・報告の執筆や発表などをこなしています。発足時からの主だった発表記事論文(『土曜講座通信』『どうよう便り』『市民科学』『市民研通信』収録分)はすべて、この4月末までにホームページの「市民研アーカイブス」に、テーマ別に分類して収められることとなりますが、その総数は700本を超えています(「アーカイブス」ページの「検索窓」から好きなキーワードで容易に検索できます)。イベントなどで面識を得たり名刺交換をさせてもらったりした方には月1回程度で「市民科学研究室からのお知らせです」という電子メールを配信していますが、そうした方々の数も2000名を超えるようになりました。計測(電磁界など)、翻訳、データ解析、ウェブシステム構築……など専門技能を要する事柄も、幸い多くの有能な協力者に恵まれて、「外注」ではなく自前でこなしていく人的なネットワークが整いつつあります。こうしてみると、市民が、自身が抱えた科学技術がらみの社会的な問題の解決のために、必要な調査を立案して実行し、なんらかの成果を出して社会的変革につなげる、という活動のための「場と仕組み」—これこそが、「市民科学」だと私は考えています—が、市民科学研究室をひとつのモデルケースとしてできつつあるように思われます。【参考】

「食」と「リプロダクション」の 研究会へのお誘い

市民科学研究室ではおおよそ月1回の頻度で、各研究会が定例の会合を持ち、研究会メンバーが調べたことなどを持ち寄って、議論や調査を続けています。どなたでもメンバーになることはできるのですが、毎回の参加が前提になり、調査に関わる作業も担うことになるので、メンバー登録を希望される方には事前にお会いして打ち合わせをさせていただくことにしています。

ただ、時折、研究会で新たなテーマを取り上げる場合や、基礎的な勉強を固めて行う場合などに、研究会を半ば公開して、単発でどなたにでも自由に参加できるようにすることがあります。

この4月と5月になされる次の2つの研究会【左の「研究会の案内」を参照のこと】は、数名(事務所のスペースを使いますので、5～6名くらいまで)の範囲で、どなたでも参加していただけるようにしています。希望される方は、事前にご一報いただければと思います。参加費用は一切かかりません。

決まったテキストなどを使用している場合は、参加を希望される方には、前もって該当部分のコピー等をお送りします。継続的な参加が決まった場合は、そのテキストを市民研で購入して配布することになります。

少人数で、楽しい雰囲気の中でじっくりと議論のできる場になっています。意欲のある大学生や高校生の参加も歓迎します。■

【左から】この「場と仕組み」をフル活用し、量的にも質的にもレベルアップさせて、社会問題の核心に切り込めるようにしたい、というのが私の思いですが、そのために必要なものは何か、今の時代をどうみて、NPOとしてどういう実効力のあるアプローチをなすべきなのか—このことを、20周年にあたって、多くの人と論じ、次なる活路を展望してみたいと考えています。2013年の秋に開催を予定している「市民科学研究室20周年イベント」(年末の恒例のクリスマス会を繰り上げて合体させることも考えています)、ご参加やメッセージのご寄稿はもとより、企画に関するアイデアの発信なども含めて、あなたなりに大に関わっていただければありがたいです。【詳細はホームページの該当欄をご覧ください。】■